

## 1. 評価結果概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

## 【評価実施概要】

事業所番号	4590800019
法人名	医療法人 隆 徳 会
事業所名	グループホーム あさひ
所在地	宮崎県西都市旭1丁目50番地 (電 話) 0983-42-1124

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 10 月 1 日

## 【情報提供票より】(21年9月10日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 25 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	8 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	450 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	8 名	男性 4 名	女性 4 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	83.7 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	鶴田病院 鶴田クリニック
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、西都市街地にあるが、交通や人通りの煩雑さは無く落ち着いた環境である。日本庭園と広々とした家屋で入居者の時代感覚に沿った住まいである。利用者は「安全で楽しく」の理念にそって提供されるケアのもと、穏やかな表情で安心の暮らしが守られている。母体の医療法人との連携もよく、定期的に看護師や栄養士の助言や支援も行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回の外部評価の改善課題について、業務の中で改善に向けて努力しているが、今後は改善計画シートなどを使用して具体的に検討し実施への取り組みを考えている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者兼介護計画担当者が中心になり、日々の業務の中で全職員で取り組んできた。今後は全職員に評価項目を提示し、意見交換、共有を通して、自己評価に取り組んでほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2~3か月に1回、定期的で開催している。運営状況、利用者状況の報告と共に、行事に関する相談や協力依頼を含め、地域密着型サービスのグループホームに対する理解に努めている。参加者は市町村担当者、包括支援センター、地区長、民生委員、子供会担当者、家族代表、事業所関係者など7~8人である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	開設2年目で全体を通して6か月~1年未満の利用者が殆どであり、家族の面会時に声かけて報告すると共に意見を聞き、対処している。運営推進会議には、開所当時から入所者の家族が代表で参加、意見を頂いている。重要事項説明書に外部の相談苦情窓口の記載をお願いしたい。ホーム便りは今年より発行され喜ばれているので続けてほしい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議には地区長、民生委員、子供会担当者などの参加があるが、近隣住宅とは連携がなく今後の検討課題である。しかしホーム内の部屋を子供会の集会に提供する予定あり、これを通して入居者と地域の連携の改善や発展に期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用前の生活を基本に「安全で楽しく」また自然体で過ごして頂くことをモットーにケアを行なっている。グループホームあさひにあった理念を職員全員で検討中である。		これまでの取り組みを基に、全職員で、「あさひ」独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りの中で、お互いに関連付け理念の共有とより良い改善に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の参加メンバーを通じて地域との交流を予定している。ホーム内の部屋を子供会の集会に提供する予定がある。これらを通して地域に理解を広げ地域の一員として地域活動への参加を考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は日々の業務の中で一生懸命に自己評価に努めているが、外部評価の結果は関係者全員が、受容・共有されていない。	○	外部評価の結果で「取り組みを期待したい項目」については全員で共有し、改善取り組みシートを活用して具体的に改善に取り組む体制を育ててほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や地域の多彩なメンバーの参加で定期的開催されている。ホームからの報告と行事に関する相談や協力依頼を行っている。地域密着型のグループホームに対する理解を深め、利用者の本来のサービス向上につながるよう取り組みを続けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議参加のほか、必要に応じて連絡をしている。ホームは、行政の地域密着型のグループホームに対する理解と、サービスの質の向上に対して温度差を感じるが最善をめざし取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に状態の報告などを行っている。介護計画書や金銭管理などについては予告して時間に余裕を持って説明を行っている。緊急時にはその都度、電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に出来るだけ声をかけ、意見や不満が出やすい雰囲気づくりに努めているが、利用期間が短いこともあって、苦情等が出にくい状況にある。重要事項説明書にも外部の相談苦情窓口を記載する予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は頻繁ではなく、利用者への影響は少ない。新任職員に対してはオリエンテーションを重視すると共に夜勤など二人体制で利用者へのダメージを少なくする配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者兼計画作成担当者はその職務上、法人外の研修を受ける機会が多い。また職員も向上意欲あり研修に参加し資格取得につなげている。その成果を報告・伝達することで他職員や利用者へ反映出来るように取り組む予定である。	○	研修参加の復命書や報告書、勉強会の内容は、職員全員に回覧・共有できるようにファイルし、その後参考にしたり利用し活用してほしい。事業者は研修や資格取得による成果を認めることで利用者サービスや職場環境の改善につなげてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に毎回参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。また、地域の同業者とネットワーク作りや相互訪問による交流を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望や必要に応じて事業所より訪問したりホームに来ていただいて、お茶の時間まで一緒に過ごしなが、徐々に事業所の雰囲気に馴染めるように家族と相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生い立ちや生活歴・職歴を基に、見守りを主に会話につなげており、より良い関係をつくれるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の見守りの中から出来るだけ利用者の思いや意向を把握できるように努めている。また、家族からの情報も参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個々の利用者の介護計画書作成について、家族や関係者との話し合い・意見の反映が十分でない。	○	定期的なモニタリングやミーティングなどを行い、関係者の意見を反映した計画の作成を行なってほしい。また必要書類の記載の取組みにも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護度の重度化に伴い、状態の変化が頻繁である。ケア対応は出来ていても計画の変更・記載が遅れることがある。	○	家族への連絡や介護提供の変更はできているが、その後の対応について家族や関係者と話し合い、現状に合った介護計画の作成・記載の取組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の入院などによる居室確保など、利用者や家族の要望にできる限り柔軟な支援をしている。相談があれば要望に添える体制がある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援を行っている。車椅子使用者が大半を占めており、母体法人病院からの訪問医療が検討されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時に看取りの同意書をもっているが、本人と家族の意向に添うように対応している。職員の体制作りも取り組み中である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的なプライバシーの確保はできており、日々ケア提供の中で職員同士気付きを大切にして改善に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用前の暮らしの習慣を大切にして対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いたり、時には簡単な手伝いをしてもらいながら、職員の手作りの家庭料理を楽しんでいる。職員も同じ食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を職員の介助と見守りで行なっている。介護度の重い方の入浴には職員を一人多くしている。一人ひとりの時間帯の希望には添えないが、都合により入浴日に入れなかった場合は翌日に支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歩行可能な利用者は、庭の散歩や草むしりなど自主的にされており、無理強いはしていない。レクリエーションなども声かけはしても自由参加である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	大半の利用者が車椅子の為、戸外の散歩の支援が困難である。基本的には外出希望者は家族に支援を依頼している。シルバーウィークには本体法人の空車を都合して、利用者全員でドライブを愉しんでいる。	○	受診の支援などもあり事業所専用の車の必要性を職員は感じている。法人の関連事業所も多いので車の使用時間などの調整で買い物やドライブ、公園などへの外出支援の取組みに期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は9時～17時まで開放している。職員は鍵をかける弊害については理解している。ホーム関係者の安全に対する強い希望で門扉、窓ガラスには鍵をかけているが、運営推進会議でホームへの理解を深め、開錠について検討している。	○	開設当時から状況は同じであり、地域密着型のグループホームのあり方に対して事業所を挙げて関係者や地域の理解を得ることの取組みに期待したい。また認知症サポーター養成研修などの共同開催の取組みを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時の連絡網、避難場所の設定、マニュアルの作成など出来ているが、事業所独自の防災訓練は実施されていない。特に夜間帯は不安が大きい。運営推進会議で地域との連携も検討しており、10月中に防災訓練を予定している。	○	消防署や運営推進会議メンバー、地域との連携を取り、種々の災害や時間帯を想定しての訓練に取り組んでほしい。また非常用食料や備品等の準備への取組みも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材や献立・調理法・量も適切で食べ残しが無い。個々の基礎疾患も考慮され、水分量も確保できるように支援されている。定期的に体重測定もあり、安定した数値が見られた。母体病院から栄養士の訪問があり、時々見てもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりした間取りで共有空間も広く、明るい。回廊に置いてあるカセットラジオから音楽が流れていた。ダイニングキッチンにテレビが置いてあり居間を兼ねているが、ゆったりと寛げるようなソファとそれを置くスペースはない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や整理タンス、テレビなどの持ち込みで利用者の好みの配置になっている。		